



『人間と天災』

社会福祉法人ちいろば会 理事 木ノ脇 悦郎

7月は地震があったり、西日本で大雨で大きな災害があったりして大変でした。特に、家族や親しい人たちを亡くされた被災者の方々の悲しみを思いますと、慰めの言葉もなただ心が痛みます。日本は地理的に災害が多く起こりやすい場所に位置していることが原因でしょうか。でも、がけ崩れや、川の氾濫や堤防の決壊、そしてその最大の原因になっている大雨、特に思いがけない時に、思いがけない場所で突然襲い掛かってくる大雨はただの自然災害(天災)といえるのでしょうか。少し考えてみたいものです。

例えば、最近の雨の降り方は地球温暖化がその原因となっていると言われます。人間が便利な生活を送るために多くのエネルギーを使い、煙や排気ガスを空中にまき散らしていることが温暖化を招き、その結果とんでもない雨の降り方を招いていると言います。また、山で降った雨はそれをしっかりと保っておく森林が不十分なために、そのまま流れ下り、手入れをしていない木々をなぎ倒して川下に押し流し、川をせき止めて洪水の原因を作っていると言います。崩れ易い山の斜面に住宅地を作っているのは、人間の快適な生活のために自然の営みを無視した計画が実行され、その結果自然の動物が住宅の近くに出てきたり、災害時には押し流されてしまったりしているのだと言われています。人間は過去の過ちを繰り返さないように学ぶはずなのですが、少しも学んでいないことになるのではないのでしょうか。

災害がそれほどでもなかったと思われる時代に書かれた旧約聖書の中に、賢くて本当は愚かな人間を取り扱った物語があります。『創世記』11章に記されている「バベルの塔」の物語です。人間が賢くなるにしたがって、その知恵を用いて便利で快適な技術を生み出します。その技術を用いて人間が第一で、何物よりも優れていることを証明したいと考え始めます。そのことは「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう」という言葉が示しています。そして力を尽くして塔のある町の建設に取り掛かりました。自分が一番偉いと考えている人は、他人の言葉を聞こうとしません。それどころか、批判を受けたり注意されたりすると、それを無視したり「お前は何を言ってるんだ、全然わからん」と反論して言葉が通じなくなってしまう。この物語では、そのことを神様の懲らしめとして次のように言い表します。「彼らは何を企てても、もう妨げることはできない。だから彼らの言葉を混乱させてお互いに言葉がわからないようにしてしまおう」というのです。

この地球上には人間だけが生きているわけではありません。昔から動物も植物もどんなに小さな生き物もそれぞれ自分たちの仕方ですべて生きています。知恵を持った人間だけが、その生活の在り方をどんどん変えて、しかも他の生き物の事を考えようともしません。これは賢いのでしょうか、愚かなことなのでしょう。私たちが経験した悲しくつらい災害から、このようなことを考えさせられたのでした。

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八)日発行

コミュニケーションDEスキルアップ

ちいろば会事務長 和田 泰子

今年度ちいろば会は「職員間のコミュニケーションの充実、中堅職員による丁寧な新任指導」を重点項目に掲げ、職員は日々業務における報連相を実行しています。業務における報連相は、コミュニケーションの基本となりどのような場面にも必要になってくるのですが、実際はなかなか行動に結びついていない現状があるようです。

作業所時代は職員が一日の出来事や福祉制度の問題点や疑問点等、メンバーが帰った後にじっくり話し込む時間がありました。ですから新施設建設時には事務所が職員のコミュニケーションの場となるようにデスクを横一列に設計してもらい、それが功を奏してか日報を入りながら誰からともなく口を開き一日の出来事を話しては支援における悩みや業務についての迷い等打ち明けていました。そしてそれを聞いた先輩たちがアドバイスとして自身の成功談や失敗談を語る時間が自然と持っていたのです。しかし、職員の人数が増え、福祉制度が変わり事務作業が増えたことで職員の気持ちに余裕がなくなり、また、個々の職員の仕事に対する想いも時代と共に変化する中でそのような時間が取れなくなっていきました。昔は業務における報連相を改まってしていなくてもコミュニケーションは十分取れていたのに、現在では報連相が業務の中でどれだけ大切なことかを伝えなければいけなくなってしまったなと強く感じています。

しかし、出来なくなると諦めるのではなく出来るようにしなければなりません。

まず、報連相を発信する側は、どんな事でも疑問に感じる力と知ろうとする貪欲さを持って、報連相の相手を見極めます。相手が話をしているときは、意欲的な姿勢を示して、指示や命令を最後まで聴き、質問がある場合は全てを聴き終えてからするように心掛けてください。せっかく上司や先輩が自分の為に時間を割いてくれているのだから、横柄な態度で聴くのではなく謙虚に学ぶ姿勢を示すべきだと思います。また、報告するタイミングは上司や先輩が忙しそうだからといって報告せずにいると、仕事が遅れてしまう可能性もあるので気をつけなければいけません。

次に、報連相を受ける側は、部下や後輩の報連相をきちんと受け止めて適切な指示やアドバイスをします。上司や先輩が部下や後輩のメッセージを傾聴する姿勢や、正しく内容を理解し判断する能力を備えていないと報連相の目的は達成できません。それができない状況が続くと「この人に報連相をしても無駄」と思わせてしまうことにもつながります。また、報連相を受けても自分の裁量を超えている場合は、安易に判断をせずにさらに自分の上司や先輩に報連相をすることになるので、その時は部下や後輩と一緒に自分の上司や先輩に発信してみることも大切だと思います。

最初はどのタイミングでどのように話せばよいのかと迷うこともあるでしょう。でもこのような取り組みを繰り返し行うことで、業務における報連相が上手く機能して組織内のコミュニケーションの円滑化につながるはずで、そして、職員個人として職員集団として、必ずスキルアップできると考えています。

しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介

このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮ってもらい紹介してもらいます。紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。お友だちを紹介してくれる人には3つの質問をお願いします。

《1、どうしてその人を選びましたか？ 2、どういう所が気になりますか？ 3、その人の好きなことは？》

おがわ 小川あゆみさんより きむらともこ 木村朋子さんを紹介します。



わたしは、けいぎょう1年の木村ともこさんをしょうかいします。
木村さんの好きなところは、よくきかつかい、おいしいところだと。
また、おしゃべりにのまわります。
グループホームはあそびにまじりながら、またきてね。
小川あゆみ

まえひらまさやす 前平正恭さんより にしだくみこ 西田久美子さんを紹介します。



西田さんは食品セロカ部門で
グループホームのごはんづくりを
しています。
ほかにもまがりのドンキーの仕事を
しています。
昼休みや夕方話をするのがたのしみ
です。
西田さんはとてもやさしい人です。
しるしえんげい会ではピアノをたたく
うたもうまいです。

『ちいろば旅行の取り組みについて』

こうどうはん はん
行動班 8班



みんなが楽しみにしている旅行。

今年は9月13日(木)14日(金)で行き先は、京都。

今回は、主にグループでの行動が中心となります。これまで全体でグループごとに話し合い

1日目の観光先(水族館 鉄道博物館 太秦映画村)と2日目の体験(トロッコ列車 保津川下り)かを決めていきます。その中で、私達8班は、1日目みんながバスで京都まで行くのとは別に、交通機関を利用して目的地まで行くグループです。そのため、先日どんな行き方をして、目的地の太秦映画村まで行くかを話し合いました。

「どんな行き方があるかなあ? JR? 近鉄?」普段から電車であちこちお出かけしていて、乗継など詳しいS君さすがです。「JRで大阪行って、阪急乗って京都行く。奈良まわりでも行けるで! または、京橋乗換で京阪もある。近鉄でも行けるし、その場合は西大寺乗換か、田原本乗換で京都まで行けるよ。」どんどん出てきます。凄い。感心してあっけにとられている私達を尻目に、「特急乗ろう」「特急乗らへんの?」とT君。「いやあそれは高いで。あかん」とみんなに却下(笑)話し合いの結果いろんな電車に乗りたいというみんなの意見で、私達はJRで王寺から大阪阪急で西院まで行き、嵐電に乗って目的地の太秦まで行くことになり、帰りは、近鉄を利用しようと決めました。まだまだ細かいところは、これからみんなで話し合っていきたいと思えます。旅行に行く日だけでなく、自分達で一つ一つ決めていくときから旅行が始まっていて楽しさも倍増するのですね。

旅行が楽しみです。

とつげき!

グループホームのばんごはん!!

食事は「同じ釜の飯」と言われるように、みんなで食卓を囲むことが共同生活の醍醐味だと思います。利用者のみなさんはそれぞれ食生活の習慣も違いますので昔話のような山盛りごはんに大笑いしたり、しれ一つと他の人のおかずが狙われたりという笑い絶えません。



また昨年度より月曜日から金曜日のおかずはちいろば園の日中活動で作ってもらっています(土曜日から日曜日は食材宅配サービスを利用)。

作っている利用者からは「今日の豚肉はうまいでー」と自信に満ちた声が聞こえてきます。夕食時にも「卵皮むきが大変やっただけどやりきった」と制作裏話を教えてください。



健康について食生活の重要性を実感しています。利用者の中には体重が増えないように食事制限している方や病気の為、生野菜を控えている方など、お腹いっぱい食べられない現実もありますが風味や盛り付け、楽しいおしゃべりで少しでも食事の満足感を得られるようにしていきたいです。(井上)

かいしょくいん ちいろば会職員リレー エッセー



「わたしの好きな言葉」

ちいろば園 阪本 大和

わたしは去年の10月から週2回、パート職員としてちいろば園で勤務しており、今年の4月から正規職員として勤務させて頂いております。パート職員の時は、ちいろば園に出勤するたびに、「利用者さんの様子が先週とは全然違うなあ」や、「この人はどんな人なんだろう」と疑問に思うことばかりでした。しかし、今は毎日ちいろば園のメンバーさんとやり取りする中で、皆さんとの距離が縮まっていくことに喜びを感じる毎日です。

そんな私の好きな言葉は「Try all」（どんなことにも挑戦する）です。これは私が高校生の時に「Trial」（トライアル）を（トライオール）と読み間違えてしまったことによって生まれた迷言でした。当時、読み間違えてしまったことを認めたくなかった私は、無理やり意味を持たせようと「Try all」（どんなことにも挑戦する）と考えました。

とても安易な考えから生まれた言葉ですが、どんなことにも挑戦するということは案外難しいことだと私は日々感じています。そしてそれは、大人になるにつれてさらに難しくなっていると思います。小さい頃は経験したことのないようなことにもとりあえず挑戦してみたり、何度も失敗を繰り返す中で成長というものをしてきました。しかし大人になった私たちはどうでしょうか。大人になればなるほど成功する体験が少なくなって、いつしか挑戦することすらあきらめる自分になっていないのでしょうか。

ある調査で大人の中で新しいことに挑戦できる人は全体の20%しかいないという結果があります。すなわち、残りの80%の人は新しいことに挑戦することもせず、したとしても1度2度の失敗でどうせできない、とあきらめてしまうのです。私自身も何かに挑戦する以前に「私にはできないよ…」や「いや、それは無理だと思うよ」などとできない理由を並べることが増えたように感じます。しかし、挑戦もせず、すぐに諦めてしまうのですから失敗することはありませんが、小さな成功もないのです。

福祉の仕事は、人と人が直接関わり合う仕事です。毎日が新しいことの連続で、昨日と同じことをしても失敗したり、思いがけないことが起こることもたくさんあります。そこで無理だと諦めてしまうのではなく、日々試行錯誤しながら挑戦し続けることが成功への一番の近道だと信じ、日ごろから地道に「Try all」していきたいと思ひます。

次は、グループホーム職員の岩崎さんにバトンを渡したいと思ひます。
テーマは引き続き「わたしの好きな言葉」です。
よろしくお願ひします。

2017年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

【事業報告】

＜ちいろば園＞（生活介護事業）定員58名、年間稼働日数250日

①利用者の状況

登録者数59名（内長期欠席者 2名、3月末現在）1月-1名、2月-1名、3月-1名 計3名増員
 一日平均利用 50.8名 前年比 ±0名 年間稼働率 88.5% 前年比 -0.6%

②作業活動

・作業活動による年間売上 9,937,238円 前年比 +11.3%(+1,005,480円)
 ・利用者平均工賃 7,820円/月 前年比 +1,458円/月 54円/時 前年比 +10円

＜ちいろば生活支援センター＞（特定相談支援、障害児相談支援、日中一時支援、福祉有償運送）

・計画相談については、本法人サービス利用者についてのみ実施
 ・福祉有償運送： 実施回数 43回/年 実利用者数 2名

＜にぬふあ星＞（共同生活援助）定員19名、現員 14名（3月末現在）

利用者の状況 ・にぬふあ星 定員6名 — 現員 5名
 ・エンゼルハウス 定員4名 — 現員 4名
 ・ユイマールⅠ（にぬふあ星 サテライト）定員1名 9月1名退去、3月末をもって廃止
 ・ユイマールⅡ 定員2名 — 現員 2名 5月1名退去、11月1名入居
 ・日之出荘 定員6名 — 現員 3名 2月1名退去

＜ななつぼし＞（市町村相談支援事業）年間延相談件数：1,669件 実相談者数：167人

障害支援区分認定調査：103件

【研修会等】

- ・初任者研修 2017年 4月11日 対象者 7名 講師：富田 忠一
- ・虐待防止研修会 2017年 5月22日 西和7町 障害者等支援協議会 コアチーム主催
- ・夏季法人研修 2017年 8月18・24日 琉球・沖縄(〇〇、△△)の自己決定権を考える 講師：西浜 檀和氏
- ・冬季法人研修 2017年12月23日 優生思想と私たちの仕事2 講師：富田 忠一
- ・春季法人研修 2017年 3月24日 法人内事業報告会と日常活動におけるハザードマップづくり
- ・毎月1回職員勉強会 毎月最終木曜日17:00~18:30 映像をみながら学ぶ 講師：富田 忠一
- ・その他外部研修会 各事業において必要な内容の研修会へ随時、必要な職員が参加

【苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告】

1. 苦情申立て

・利用者の親御さんからの相談への対応に関する苦情 1件

2. 虐待報告

・虐待と認定すべき事案は発生していません。
 ・虐待の芽については、年3回の権利擁護委員会開催前に、職員と利用者から虐待の芽チェック表で自己申告とともに職員間での指摘を行っている。
 ・権利擁護委員会 2017年6月16日、11月22日、2018年2月27日 年3回開催

3. 事故・ヒヤリ報告

・利用者間の偶発的事故（ケガ） 1件 ・職員と利用者の偶発的事故（ケガ） 1件
 ・作業中に利用者が蜂に刺される事故 1件 ・職員の服薬ミス 2件
 ・職員の自動車の自損事故 1件 ・職員と利用者とのトラブルによるヒヤリ 1件
 ・利用者の飛び出し 1件

※ 紙面の都合上、本来の事業報告を割愛して掲載しています。事業報告全文は、ちいろば会ホームページでご覧いただけます。

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料(2018年4月1日~2018年5月31日)

篠原範子(4~5)、富田忠一、松本紳一郎、中井政友、田中茂子・正博

以上 敬称は略させていただきます

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

みんなきてね!!

ちいろばまつり



とき : 2018年^{ねん}9月^{がつ}8日^{にち}(土) 10:30~13:00

場所 : ちいろば^{えん}園

内容 : 10:30~ 劇団「あおむし」^{げきだん}さんの人形劇^{にんぎょうげき}



^{とうじつにゆうじょうせいげん}当日入場制限^{じぜん}があります。事前^{せいいりけん}に整理券^{はいふ}の配布もおこないます。

ご希望^{きぼう}のかたは、ちいろば^{えん}園までお申込み^{もうしこ}ください。

11:30~ 模擬店^{もぎてん}(おもちゃひき、あてものなど…)

12:30~ おたのしみ^{ちゆうせんかい}抽選会

KSKS ちいろばだより

編集人 / ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先 / 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F